



ピースデポ

平和資料協同組合

Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

発行人: 湯浅一郎 / 住所: 〒223-0062 横浜市港北区大豆戸町1020-5 第4西山ビル304
TEL: 045-633-1796 / FAX: 045-633-1797 / E-mail: office@peacedepot.org
郵便振替: 00250-1-41182 特定非営利活動法人ピースデポ
銀行口座: 横浜銀行日吉支店 普通 1561710 特定非営利活動法人ピースデポ

会報

No.53

2023.12.1

ピースデポ再生委員会の「提言」について

再生委員会最終報告

再生委員会委員長
高木規行

前回の会報で報告しましたように再生委員会は事業計画に基づき、2024年2月からの新たな体制についての最終的な「提言」を理事会に報告し、終了しました。2022年3月12日、高原孝生、池田佳代、高木規行、山中悦子、湯浅一郎の各理事で第1回再生委員会を始めてから、2023年10月21日の第12回まで、1年半にわたる検討を経て、10月28日、理事会に「提言」を提出しました。以下に、会員の皆様に「提言」についてかいつまんでご報告します。

1. 次期代表者の選定について

次期代表となる候補者の選定について再生委員会は努力を重ねたが、期日までに適任者を見いだすことが出来ませんでした。このため「代表者は不在」とし、対外的には「代表代行」とする。代表者の選定については下記2の運営委員会が中心となり、適任と思われる人へのアプローチは続けてゆく。

2. 組織運営の見直し

代表不在を補うため、若干名の理事と実務担当のスタッフで作る運営委員会により事業を継続する。これにより従来、代表一人に負わせていた仕事を運営委員会で代行することでピースデポの存続を図る。

3. 『DPLレポート』、『ピース・アルマナック』、基礎講座の三事業の継続

『脱軍備・平和レポート』の編集長については目処がたちました。また新たな執筆者の拡充を目指す。『ピース・アルマナック』については刊行委員会が機能しているので再生委員会としての関与はない。「脱軍備・平和基礎講座」については運営委員長と副委員長両名の体調不良による辞任があったものの、運営委員会は機能している。来年度も委員には継続をお願いしつつ、新たなメンバーの拡充を目指す。

4. 「ピースデポ7本の柱」の堅持

7本の柱はピースデポの骨幹であり、いくつかのプロジェクトは進行しており継続してゆきます。

5. 理事の交代、新規募集について

健康上の理由等で退任する新たな理事の候補者に対する交渉を進めると共に、2025年以降になるが既に『会報No.52』で述べた通り正会員からの理事立候補を募る事を進める。

以上を2023年10月28日、再生委員会より理事会に対して「提言」として提出しました。これを受けて理事会が、来年2月の総会に提案する2024年度事業計画案、予算案、人事案を練っていくことになります。上記1、2にあるように、しばらくは代表不在としつつも、最低限の三本柱の事業の継続をめざしていきたいと考えています。変わらぬご支援をお願いします。

以上

活 動 報 告

横須賀ピースフェスティバルに出展

(2023年10月22日、横須賀市三笠公園)

山口大輔

コロナ禍明けで4年ぶりに開催された、反核・平和・反基地運動に取り組む市民団体や労働組合が開催する横須賀ピースフェスティバルに湯浅代表、高木理事、渡辺研究員、山口ボランティアで参加しました。久々にお会いする方々は変わらない方もおられましたが、4年の歳月を感じさせられる方もおりました。

団体ブースを出展し、高木理事がアピールの時間にステージ前でピースデポの活動を紹介しました。ピースデポの呉東監事、佐藤理事も地元の団体として出展しておられました。当日は天候に恵まれたのと、公園の奥で別のお祭りが開催されていたこともあり、例年よりも多くの来場者が来られ、活気がありました。湯浅代表の畑で栽培している甘柿3個100円を10袋持ち込んだところ、わずか20

分で売り切れ、食とお買い得の威力を実感しました。



団体ブースでピースデポの書籍を販売する湯浅、山口、高木の各氏 (2023年10月22日、横須賀市三笠公園。撮影：渡辺洋介)

日本平和学会に初めて参加して

(2023年11月25～26日、早稲田大学早稲田キャンパス)

渡辺洋介

高原副代表の誘いを受け、日本平和学会の2023年秋季研究集会に初めて参加しました。研究集会の全体テーマは「私たちが戦争を『絶対に』しないための平和学—これからの100年のために—」という時宜にかなったもので、ウクライナ戦争、ガザの人道危機などホットなトピックをめぐり、各分野の専門家の間で活発な議論が交わされました。

私が参加したのは、非暴力分科会「非暴力抵抗としての日本における反原発運動」、部会3「軍事力の暴走とその悪循環」、部会5「平和博物館の危機を平和学する」、平和教育分科会「平和教育の再構築に向けて」でした。報告者

や参加者に知り合いが多く、新型コロナの流行でしばらく音信が途絶えていた多くの方々と再会できました。また、共通の関心を持つ新たな知己を得ることができました。

そのうちのひとりが、清泉女子大学の松井ケティさんです。松井さんとは平和教育分科会で知り合いましたが、彼女は、そこで興味深くかつピースデポにとってとてもありがたい2つの報告をしてくれました。第一の報告は「地球市民学の学び：『ピース・アルマナック』を用いた学習プログラム」で、勤務校で同書をどのように用いて授業を行ったか、紹介がありました。平和博物館と平和活動NGOのリストが教育現場で役に立ったという話が参考になりました。また、この報告が契機となり「ピース・アルマナック」が平和教育の場で活用されるようになればと思いました。

第二の報告は「『APCEIU 東北アジア共通カリキュラム』最終ドラフト紹介」で、日中韓3国でそれぞれどのように平和教育がなされているかを分析し、3国共通の平和教育のカリキュラムを作成するというプロジェクトが紹介されました。私は過去約10年間にわたり、日中韓3国の共通歴史教材作りや3国の青少年歴史体験キャンプの運営に関わってきたこともあり、非常に興味深く報告を伺いました。

2日間、とても有意義な時を過ごすことができました。次回の研究集会にもぜひ参加したいと思っています。



平和教育分科会で報告する松井ケティ清泉女子大学教授 (2023年11月26日、早稲田大学早稲田キャンパス。撮影：渡辺洋介)

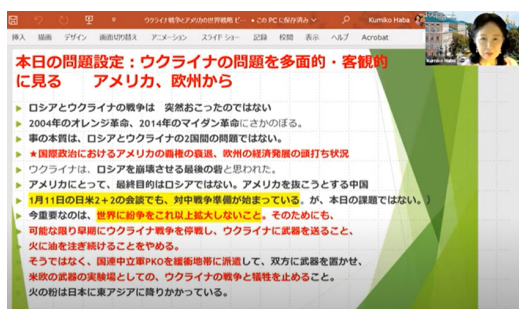
[報告] 2023年度 脱軍備・平和基礎講座 第1回～第6回

2023年6月から11月にかけて第1回から第6回までの「脱軍備・平和基礎講座」がオンラインで開催されました。今年度の全体テーマは「平和立国のビジョン」です。以下、講座の内容について私が印象に残った点を紹介します。

第1回講座(6月25日)は、前泊博盛さん(沖縄国際大学教授)に「南西諸島の軍事基地化」というテーマで講義していただきました(『脱軍備・平和レポート』第23号参照)。講義では、「監視部隊」の配備と言われていたのが「ミサイル部隊」に変わり、「保管庫」と言われていたのが「弾薬庫」に変わるというふうに、南西諸島の住民を騙しながら、なし崩し的に自衛隊の「南西シフト」を進める日本政府の姿勢が明らかにされました。

第2回講座(7月22日)では、羽場久美子さん(青山学院大学名誉教授)に「ウクライナ戦争の即時停戦を！」というタイトルでお話ししていただきました(『脱軍備・平和レポート』第24号参照)。講義では、ウクライナ戦争によって軍事、政治、経済面において米国に有利な国際情勢が生じていることが指摘され、それがウクライナ戦争がなかなか終結に向かわない背景にあることが示唆されました。

第3回講座(8月27日)は、梅林宏道さん(ピースデポ特



第2回講座で講演する羽場久美子青山学院大学名誉教授(2023年7月22日、講座の録画映像より。)

別顧問)に「利用される<北朝鮮の脅威>」というテーマで講義していただきました。日本の市民として朝鮮半島の非核化と「北東アジア非核兵器地帯」の創設にどう関わっていけるかという問題意識のもと、北朝鮮をめぐる情勢とその背景についての解説がありました。また、日韓の国会議員がワシントンを訪れて、米国の議員に会う計画の報告など「北東アジア非核兵器地帯」構想(3+3構想)をめぐる最新情報の紹介もありました。

第4回講座(9月30日)は、「被爆体験講話」というテーマで八木道子さん(元小学校教諭)の体験を伺いました。長崎で被爆した八木さんは、小学生に語りかけるようなやさしい語り口で、非常にわかりやすく、残酷な被爆の実相を説明してくれました。

第5回講座(10月28日)は、池内了さん(名古屋大学名誉教授)をお招きして「軍事研究への傾斜と学術会議「改革」問題」というテーマで講演していただきました。講師によると、日本政府が軍事研究を進めるよう大学や研究所に圧力をかけ続ける一方、科学者は新たな発見を求め、それが何のために使われるかまで思いが至らないことが多々あるとのこと。こうした中、講師は科学者に対する倫理教育が重要だと訴えました。

第6回講座(11月18日)は、「憲法の危機、平和の危機」というテーマで青井末帆さん(学習院大学教授)に講演していただきました。日本政府は、安保三文書の採択は防衛政策の大転換だが、これは憲法の範囲内で非核三原則も専守防衛もいささかも変えることはない主張しています。しかし、それは日本国憲法の立脚点からは説明できないはずで、それを逆手に取る必要があると訴えました。

2023年度「脱軍備・平和基礎講座」は順調に進んでいます。残り2回も有意義な講座となることを期待しています。

(文責) 渡辺洋介

横浜市ふるさと納税制度「よこはま夢ファンド」を通したピースデポへのご寄付を！

「よこはま夢ファンド」は横浜市の24ほどある「ふるさと納税」制度の一つです。「11. 市民活動を応援したい！(横浜市市民活動推進基金)」という思いを実現できる画期的な基金(2005年創設)です。

2016年度から始めた「よこはま夢ファンド」を通じてのピースデポへのご寄付は2018年度から毎年約200万円前後で安定的に継続しています。2023年度は約220万円でした。

ご寄付いただいている皆さまに深く感謝申し上げます。

●全国どこにお住まいでも、2,000円の負担でピースデポへ多額のご寄付が出来ます。(サラリーマンの方は、所得に応じて所得税・住民税控除が受けられます)

●ご寄付いただいた皆さんには、ピースデポからの返礼品と

して当該年の『ピース・アルマナック』、『脱軍備・平和レポート』をお送りします。

●横浜市以外の方には、横浜市より返礼品(シューマイやビールなど)があります。

ちょっと面倒・とか、一時立て替えの負担がありますが、ぜひ一度トライしてみてください。

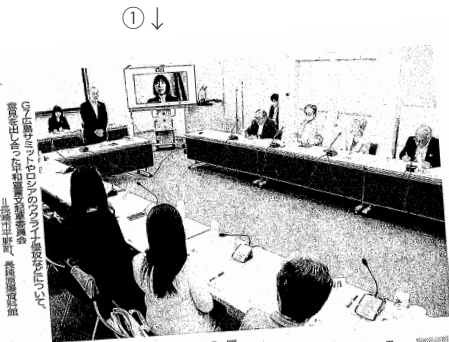
よこはま夢ファンドのweb(以下のQRコードから入れます)から寄附申し込みフォームを開いてお手続きください。インターネットを利用したクレジットカード払いが便利です。「ふるさとチョイス」に登録をし、手続きができます。



メディアに登場したピースデポ

- ① 長崎市の平和宣言起草委員会における梅林特別顧問の発言掲載(長崎新聞、2023年5月28日)
- ② 同上(毎日新聞、2023年5月28日)
- ③ 北朝鮮による5月31日の人工衛星打ち上げに関する梅林特別顧問のコメント掲載(東京新聞、2023年6月2日)
- ④ 木元理事の講演会「横浜港に進む戦争準備」(かながわ県民センター)を伝える記事(神奈川新聞、2023年7月11日)

- ⑤ 米海軍の掃海艇が14年ぶりに石垣港に入港した狙いに関する梅林特別顧問のコメント掲載(沖縄タイムス、2023年9月8日)
- ⑥ イスラエルの核兵器に関する梅林特別顧問のコメント掲載(東京新聞、2023年11月8日)
- ⑦ オスプレイに関する湯浅代表のコメント掲載(東京新聞、2023年12月1日)



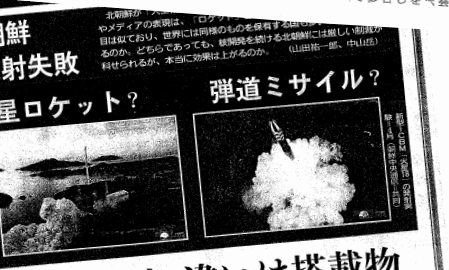
核被害の実相

初会合サミットに
平和宣言起草委員会の初会合が、長崎市の平和宣言起草委員会(以下、起草委員会)で開かれた。梅林特別顧問が、核被害の実相について、長崎新聞、毎日新聞、東京新聞、神奈川新聞、かながわ県民センターなどに発言した。梅林氏は、核兵器の存在が、世界の平和を脅かしていることを指摘し、核兵器の廃絶を求めた。



平和宣言起草委 初会合

「タプーの風潮弱まっている」
梅林特別顧問は、核兵器の存在が、世界の平和を脅かしていることを指摘し、核兵器の廃絶を求めた。梅林氏は、核兵器の存在が、世界の平和を脅かしていることを指摘し、核兵器の廃絶を求めた。



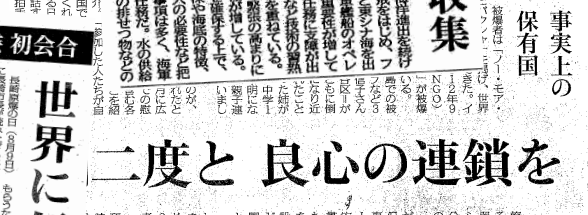
北朝鮮 発射失敗 衛星ロケット?

弾道ミサイル?
多岐共通点、違いは搭載物
北朝鮮が、5月31日に、人工衛星を打ち上げた。これは、北朝鮮が、弾道ミサイルを開発していることを示している。梅林特別顧問は、北朝鮮の核開発を懸念し、核兵器の廃絶を求めた。



港使用前提の情報収集

梅林特別顧問は、港の使用を前提として、情報収集を行う必要があることを指摘した。梅林氏は、港の使用を前提として、情報収集を行う必要があることを指摘した。



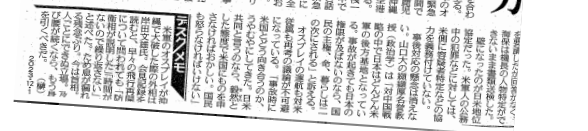
世界に伝え直さねば

平和宣言起草委 初会合
梅林特別顧問は、核兵器の存在が、世界の平和を脅かしていることを指摘し、核兵器の廃絶を求めた。梅林氏は、核兵器の存在が、世界の平和を脅かしていることを指摘し、核兵器の廃絶を求めた。



米軍・自衛隊で40機 日本の各地を飛来

リスタ広範に
日本も向き合つて
20年ほど前、沖縄県に、米軍の基地が、建設された。これは、米軍の基地を、日本に建設することを示している。梅林特別顧問は、米軍の基地を、日本に建設することを懸念し、核兵器の廃絶を求めた。



事故対応無力

7年前の沖縄 捜査に地位協定の壁
2016年、沖縄県で、米軍の基地が、建設された。これは、米軍の基地を、日本に建設することを示している。梅林特別顧問は、米軍の基地を、日本に建設することを懸念し、核兵器の廃絶を求めた。